

# イスラエルの回復のために祈りましょう

## アメリカ合衆国にいるイスラエル人

人口:675,000 人

▶イスラエル国の国民は、男女を問わず、数年間兵役の義務がある。この期間が終わると、多くのイスラエルの若者は気分を新たに、世界へと旅立つ。ヨーロッパはいつでも可能性のある場所で、インドに興味をそそられる人も多い。しかし、これから自分のために新しい人生を始めたいという人たちは、アメリカ合衆国を選ぶようである。

▶迫害を逃れようと、やっとの思いでイスラエルに逃げ込んだ前世代のヨーロッパ系・アフリカ系・中東系ユダヤ人とは違い、今日のイスラエルの若者は、本当の迫害を経験したことはない(とはいえ、戦争は彼らにとって、現実のものとしてあり続けるのだが)。こうした人々は、シオニズムや、国家を存続していくために毎日格闘するイスラエルの現状に幻滅を感じている。彼らは、新しい人生を求めて、または一獲千金を夢見て、ディアスポラ(離散したユダヤ人)にもどりたいと思っている。アメリカは、いつも移民たちにそうした夢を与える国である。

▶しかし、アメリカにいるイスラエル出身の人たちは葛藤を感じている。アメリカのユダヤ人文化は彼らにとって外国産のもので、なじみの薄いものである。実際のところ、アメリカのユダヤ人は、ややいらだちをもって、イスラエル人たちに目を向ける。彼らはこのように信じている。「イスラエル人はイスラエルに残り、祖国のために戦争で戦うべきであり、その間アメリカのユダヤ人は、経済的な支援を今までどおりしていけばよいのだ」と。一方、イスラエル人はというと、彼らは「今まで軍隊生活はずいぶんやってきたのだから、今度はアメリカのユダヤ人が戦いに行く番だ」と思っているのである。

▶現在、アメリカで一番大きなイスラエル人の共同体はニューヨーク市にあり(6-7万人)、次いで大きいのはロサンゼルス(4万人)、マイアミ(1万5千-2万人)となる。イスラエル人はたくましく、自尊心が強く、自説に固執しそうな率直で冒険好きな人たち、と見られがちである。彼らの多くは技術的な分野に適応しており、ホワイトカラーの専門職に就いている。事務職やサービス業界などで活躍している人もいる。彼らの失業率は非常に低い。それは、彼らは給料の安い仕事から始まって、徐々に組織の中でよい仕事に就いていくことを、いとわないからである。

▶一般的にイスラエルからの移民は、アメリカにおける他国からのユダヤ人移民よりも生活が豊かである。その要因として、彼らがアメリカに到着した時点での高い英語力が挙げられる。イスラエルでは、英語教育は小学校から始まり、それは高校まで続く。イスラエルは、ハイテクノロジーの社会であり、多くの技術的分野において、アメリカと同じレベルに達していることも挙げられる。また、イスラエル人は非常に積極的であり、商才にもたけている傾向

にある。彼らは新しい分野を恐れずに真正面から取り組み、その仕事をいち早く覚えるのである。

▶イスラエル人は、アメリカのユダヤ人よりも世俗的な傾向にある。イスラエルでは、ほとんどの人が幾つかの祭日に関する伝統を守ってはいるが、信仰を持つ人は、わずか 10%にすぎない。彼らは、イスラエルという国にいと、自分のユダヤ人としてのアイデンティティをそれほど感じないが、離散先の国に住むと、自分の民族性に目覚めるのである。

▶アメリカに移住してきたイスラエル人は、よくイスラエルに帰国する。祖国の家族に会うために、また自分の子どもが祖国に触れるように、そして戦争に参加するためにも——。一般に、彼らのイスラエルへの忠誠心は強い。



## 祈りの課題

☆ 彼らが霊的な飢えを満たすために、物質主義や快楽主義、ニューエイジ思想や性的不品行などに走らないで、神のもとに帰ってくるように。

☆ アメリカの文化になじむことで、彼らの心が開かれ、神との関係を求めるように。

☆ 彼らのへりくだりと神が共にいない不十分さが、傲慢さや自己満足に打ち勝つことができるように。

☆ アメリカにいるイスラエル人が、自分のメシアを知ることができるように。

☆ 彼らが神の召しとご計画のために、立ち上がるように。

☆ 彼らの間で働くミニストリーの祝福のために、主がヘブライ語を話す働き人を遣わしてくださるように。

☆ 「メシア(イエス)を信じたら、ユダヤ人ではなくなってしまう」という偽りを、彼らが見抜くことができるように。

---